

芸術科（音楽）「音楽Ⅰ」学習指導案

日 時：令和3年7月14日（水） 第5校時

対 象：音楽選択者1年3組 22名

授業者：群馬県立安中総合学園高等学校

教諭 富岡 恵美

場 所：多目的室

1 題材

(1) 題材名

「さくらさくら」を三味線で奏でて味わおう～引き継がれる日本の伝統音楽～

(2) 教材

- ・「練習曲1」「練習曲2」「練習曲3」「さくらさくら」
（『音楽教員のための実践長唄入門』より 文化庁伝統音楽普及促進支援事業教材作成事業）
- ・オペラ「蝶々夫人」（映像資料）

(3) 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅰ A表現（2）器楽

- ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
 - (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり
- ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
 - (ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能

音楽Ⅰ B鑑賞（1）鑑賞

- ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聞くこと。
 - (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
 - (イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
 - (ア) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり
 - (イ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴

〔共通事項〕（1）

本題材において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色、速度、リズム」

(4) 題材の目標

- ア 「さくらさくら」の曲想と楽器の音色や奏法、表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- イ 三味線固有の音色や、「さくらさくら」における音色や速度、リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもつとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、及び自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く。
- ウ 三味線固有の音色や、「さくらさくら」における音色や速度、リズムに関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、日本の伝統音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知① 「さくらさくら」の曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。(器楽)</p> <p>技 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。(器楽)</p> <p>知② 「さくらさくら」の曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。(鑑賞)</p>	<p>思① 三味線固有の音色を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。(器楽)</p> <p>思② 「さくらさくら」の音色や速度、リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、及び自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。(鑑賞)</p>	<p>態 三味線固有の音色や「さくらさくら」における音色や速度、リズムに関心を持ち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(器楽・鑑賞)</p>

3 題材の考察

(1) 題材設定の理由

学校教育における「我が国の伝統音楽」の取扱いは、平成元年告示の高等学校学習指導要領で示されて以来、30年に渡って充実が図られてきた。その中で、我が国の伝統音楽の楽器の取扱いを見てみると、その実践の多くは、「A 表現」の「イ 器楽」及び「B 鑑賞」における「箏」を取り扱う学習が中心となっている現状があると感じている。箏を扱う学習では、音色と奏法との関係に着目して演奏したり、我が国の音階に基づく旋律の特徴を味わったりすることが容易で、生徒にとっては表現及び鑑賞のいずれにおいても音楽的な達成感を得やすいと考える。

一方、我が国の伝統音楽を学び、それを自国のアイデンティティとして捉えるためには、「必ずしも多くの種類の音楽を網羅的に扱うことを求めているわけではない(学習指導要領解説 p.50)」ものの、箏以外にも様々な伝統的な楽器に触れ、考えを深めたり、広げたりすることも重要であると考えられる。そのため、本題材では、箏と比べて扱われる機会こそ少ないが、同じ撥弦楽器である三味線を扱い、「器楽」及び「鑑賞」を関わらせて学習することで、三味線独自の音色が日本人の自然や風土などと密接に関わっていることを理解できるようにしたい。箏以外の日本の伝統的な楽器がもつ魅力に気づき、引き継ぐべき日本の音楽を普通教育における音楽を学ぶ最後の機会となる高等学校において学習することで、我が国のアイデンティティを誇りに思える人材を育てたい。

(2) 生徒の実態

ア 知識・技能

三味線そのものや「さくらさくら」の楽曲を知らない生徒はいないと思われるが、今までに三味線で「さくらさくら」を演奏したことのある生徒は全くいない。しかし、同じ弦楽器であるギターについては、これまでの学習で高い技能を持つ生徒も見受けられた。そのため、ギターの学習を想起させながら学習を進めることで、「さくらさくら」の曲想と楽器の音色や奏法、表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けられるようにしたい。

イ 思考・判断・表現

これまでの学習で、ギターの音色を知覚・感受し、楽曲の速度やリズムに着目しながら創意工夫をする生徒が多くみられた。そのため、三味線を扱う学習でも、楽器固有の音色や楽曲における音色や速度、リズムについて、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えられるようにするとともに、楽曲や演奏に対する評価とその根拠、及び自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴けるようにしたい。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

ギター学習における班活動やアンサンブル活動の中で、生徒たちは、自らの考えを他者と交流したり、互いの気付きを共有し、感じ取ったことなどに共感したりしながら、個々の学びを深めることができていた。生徒が試行錯誤しながら、より良い演奏にするためにどうしたらいいのかを他者との関わりの中で行うことができるよう、演奏及び鑑賞の学習の中で班活動やアンサンブル活動を取り入れて主体性を育んでいきたい。

(3) 教材選択の理由

「さくらさくら」は私たち日本人にとって馴染みの深い音楽であり、日本の伝統楽器である箏などでも最初に取り組む楽曲の一つである。平成13年度に使用されていた小学校音楽の教科書には「さくらさくら」について以下のような解説が付けられている。

「さくらは、昔から親しまれてきた日本の代表てきな花です。この歌も、古くから人々の間で親しまれ、歌いつがれてきました。」

普段何気なく聞いたり演奏したりしている「さくらさくら」が我が国の自然や風土、そこで育まれた美意識などに根差しているということを理解することは、我が国の音楽の良さを再認識する上で重要なことであると考えます。

また、「さくらさくら」は、プッチーニ作曲のオペラ「蝶々夫人」の中でも登場人物が日本を紹介する場面で形を変えて使用されている。日本人ではない作曲家も日本の象徴として取り上げた「さくらさくら」を教材として扱うことは、日本に暮らす生徒にとっても日本の音楽の魅力を改めて感じ、引き継ぐべき音楽として価値を見出すことができると考え、選択した。

(4) 題材の系統性

4月から6月までは歌唱では「校歌」、器楽ではギター「木星」、ギターアンサンブル「第3の男」に取り組んだ。ギターアンサンブルでは、Google社のClassroomを活用し、毎回の授業の最後に自分たちの班の演奏をストーリーミングに投稿するという活動を取り入れた。生徒たちは自分たちの演奏を客観的に振り返ることができたり、毎回のアンサンブルの上達を感じることができたりしていた。

また、自分たちの班の演奏だけではなく、他の班の演奏の様子を見たり聴いたりすることができるため、音楽表現の創意工夫に大きく役立った。そのため、本題材においてもそれらの機能を活用しながら生徒の主体的な学びを促進したい。

4 指導と評価の計画

次	時間	○学習のねらい ・主な学習内容	知・技	思	態
			【 】内は評価方法		
1次 器楽	三味線に親しみ、楽器の構え方や演奏方法などの基本的な奏法を理解して演奏する。				
	1	○三味線に親しみ、構え方や勘所の押さえ方、撥の振り下ろし方、文化譜の読み方などの学習の基礎を学ぶ。 ・文化庁による伝統音楽普及促進支援事業「すぐに役立つ！音楽教員のための実践長唄入門」のDVDを参考にしながら、三味線の構え方や勘所の押さえ方、撥の振り下ろし方などを動画で見ながら確認する。 ・三味線に多く触れながら調子の種類を理解する。			
	2	○三味線の音色を意識しながら演奏する。 ・基礎的な技能を生かし、練習曲に取り組む。 ・三味線の音色を意識しながら「さくらさくら」を演奏する。	知① 【WS】		
3	○三味線の音色や奏法との関わりを理解して演奏する。 ・三味線の音色の特徴でもある「サワリ」について、楽器の仕組みについて学習したり、音色について感じ取ったりして、音色について知覚したとことと感受したとこととの関わりを学びながら音楽表現の豊かさや美		思① 【WS】		

		しさを感じ取りながら演奏する。 ・三味線が日本の自然や風土、そこで育まれた美意識などと密接に関わっていることを捉える。			
	4	○桜のイメージを膨らませ、そのイメージに合った「さくらさくら」の演奏をする。 ・桜のイメージ、またその桜の情景を膨らませて、そのイメージと音楽を形づくっている要素との関わりを生かして演奏する。	技 【演奏】		
2次鑑賞	様々な「さくらさくら」の楽曲としての魅力を味わい、我が国の音楽の魅力を再認識する。				
	5	○生徒それぞれが表現した「さくらさくら」の魅力を味わい、オペラ「蝶々夫人」においてもこの楽曲を使用していることを学習することで、引き（弾き）継いでいきたい日本の伝統音楽をよさや美しさを味わう。 ・生徒が表現した「さくらさくら」の演奏を聴き、演奏に対して根拠をもって音楽のよさや美しさを味わって聴いたり批評したりする。 ・オペラ「蝶々夫人」の中で「さくらさくら」のテーマが日本を象徴する場面として使用されていることから、引き（弾き）継がれる日本の伝統音楽の理由について考える。		思② 【WS】	
3次器楽・鑑賞	演奏や鑑賞をとおして、日本の伝統音楽を引き継ぐ意味について考える。				
	6	○三味線による「さくらさくら」の魅力に迫る。 ・箏やギター、ピアノによる「さくらさくら」と三味線による「さくらさくら」の演奏を聴き比べ、異なる楽器による表現の効果について比較して味わいながら演奏する。	知② 【WS】 技 【演奏】		態 【WS】 【観察】

5 本時の学習

(1) 目標

「さくらさくら」の音色や速度、リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、自分にとっての音楽の意味や魅力を考え、引き継いでいきたい日本の伝統音楽としてのよさや美しさを味わう。（第5時間／全6時間）

(2) 使用教材・機械

オペラ「蝶々夫人」のDVD、ワークシート、クロームブック

(3) 展開

	○学習のねらい ・主な学習活動	◇支援及び指導上の留意点 ■評価規準と【評価方法】
導入 5分	○前時の復習をし、「さくらさくら」の特徴を確認する。 ・自分の表現したい「さくらさくら」についてイメージをもって演奏し、本時の課題を確認する。	◇表現したい桜のイメージと音楽を形づくっている要素とを関連付けながら演奏するように言葉がけをする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問：あなたが引き（弾き）継いでいきたい日本の伝統音楽「さくらさくら」の魅力とは？</p> </div>		

<p>展開①</p> <p>20分</p>	<p>○「さくらさくら」の演奏の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの生徒が前時までに表現方法を工夫して演奏した「さくらさくら」を全体で聴き、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを捉える。 ・全体で聴取した後、自分のお気に入りの「さくらさくら」の演奏とその理由をワークシートにまとめ、全体で共有する。 	<p>◇特に表現の工夫が顕著であった生徒の演奏を選んでおき、提示できるようにする。</p> <p>◇クロームブックに掲載した演奏は、イヤホン等を使用して聴いても良いことを伝える。</p> <p>◇評価した根拠について、曲想と音楽の構造との関わりや、演奏を聴いて感じ取った自己のイメージ、感情などに関わらせながら明確に示すことができるようにする。</p>
<p>展開②</p> <p>20分</p>	<p>○オペラ「蝶々夫人」のDVDを鑑賞し、「さくらさくら」の楽曲の魅力に気づき、本時の問に対する自分なりの答えを探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蝶々さんが嫁入り道具の小物を夫に披露する場面を鑑賞し、日本を象徴する場面における「さくらさくら」の演奏の特徴を味わう。 ・これまで演奏してきた「さくらさくら」との共通点や相違点、特徴的な音色や速度、リズムをワークシートに記入する。 ・プッチーニにとっての「さくらさくら」の魅力を考え、楽曲の特徴の理解を深めて鑑賞する。 	<p>◇DVDは音のみを鑑賞し、音色や速度、リズムに注目して鑑賞できるようにする。</p> <p>◇「外国人から見た桜はどんなイメージか」、「桜の良さや味わいはどういったものか」などを発問し、桜が日本の自然や風土、そこで育まれた美意識などと密接に関わっていることを、考える際の手がかりとして示す。</p> <p>■思②【ワークシート】</p>
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>○自身にとっての「さくらさくら」の魅力を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったら「さくらさくら」のどんな魅力を伝えようと思うかについて、ワークシートにまとめる。 	<p>◇プッチーニはオペラの中で日本を象徴する場面において「さくらさくら」を使用したことを理解した上で、問に対する自分の答えについて主体的な意識をもって考えることができるようにする。</p> <p>■態【観察、ワークシート】</p>